

## これはおかしい！

8月初旬に朝日新聞が従軍慰安婦報道について、「吉田証言」に関する過去の記事を取り消してから、「おかしなこと」が次々と起こっている。

黙っておれないのが、朝日新聞10月2日社説に掲載された「大学への脅迫」である。

かつて慰安婦報道に関わった元朝日新聞記者が教授を務める帝塚山学院大に9月、別の記者が非常勤講師を務める北星学園大には5月と7月、それぞれの退職を要求し、応じなければ学生に危害を加えるという趣旨の脅迫文が届いた。北星学園大には、「爆弾を仕掛ける」という内容の電話もあったという。

警察が威力業務妨害の疑いで調べているが、これは明らかに犯罪である。攻撃の対象は元記者にとどまらず、家族までもがネット上に顔写真や実名をさらされ、脅迫めいたことが書き込まれた。

社説は「朝日新聞への批判から逃げるつもりはない。しかし、暴力は許さない」という思いは共にしてほしい。この社会の、ひとりひとりの自由を守るために」と結んでいる。

こうした脅迫を許せば、大学で自由に研究教育ができなくなる。二つの大学だけではなく、学問の自由・思想信条の自由、大学の自治を守るうえで大学全体の問題だ。今回の脅迫事件は朝日新聞だけの問題ではない。言論界・メディア全体の問題だ。とりわけ新聞の「反応」に注目したい。3日には、読売「言論封じを狙う卑劣な行為だ」、毎日「看過できない卑劣さ」、中日「言論への暴力許されぬ」などの社説が掲載された。

毎日新聞の社説を一部紹介しよう。

自由な議論を保障するためにも警察には容疑者を早く検挙してもらいたい。「反日」「売国」「国賊」一。今回の事件の背景には、一部の雑誌やネット上に広がる異論を認めない不寛容な空気がある。各地で深刻さを増すヘイトスピーチ(憎悪表現)にも相通じる現象だ。乱暴な言葉で相手を非難したり、民族差別をあおったりすれば、慰安婦問題の解決はますます遠くなるだろう。

短絡的なレッテル貼りは、同種の事件を生む土壌になる。私たち一人一人が力を合わせて差別的な言動を締め出し、冷静な議論ができる環境を整えなければならない。

(2014年10月6日)

